



創樹 90

2024年4月20日発行



桜の花が咲き誇り、一年で最も華やかな季節がやってきました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、この度の能登半島地震では、多くの方々が被害を受けられました。心よりお見舞い申し上げますとともに、復旧・復興が早く進み、被災された皆様が安心して生活ができる日がくることを心より願うばかりです。

さて、人材不足はどの業界に於いても共通の課題ですが、当法人におきましても事業継続・法人存続にとって重要課題となっております。そのような中、今年度は新任職員を十二名迎えられたことは、当法人にとって嬉しい春の幕開けとなりました。当法人の採用担当職員達が様々な事業所説明会に参加し、新しい企画に挑戦するなど、積極的に活動してくれたおかげと感謝しております。しかし、この喜びと同時に、「十二粒の花の種」とも言える十二名をお預かりしたことには大きな責任を感じざるを得ません。今後、彼らが創樹会職員の一員として成長し、利用される方々を中心とした支援者になれるよう、法人全体で大切に育て、色とりどりの十二の大輪の花を咲かせられることを願っております。

理事長挨拶 お預かりした大切な花の種



また今年度の大きな事業として、「さくら」を移転改築する計画を進めてまいります。「さくら」は今年度より、笠岡町にあった従たる事業所の「さ」をりひろげ「工房まち」と統合することとなりました。そのため、卸町にある現在のスペースでは手狭になること及び、築四十七年が経過したことによる老朽化が進んでいるという課題もあり、土地の取得と老朽改築工事を本格的に進めていく運びとなった次第です。

創樹会では創設当初より、専門的な本人支援と家族支援を同時に展開してきました。ライフステージに応じた切れ目のない包括的なサービスは法人の強みであり、今後もより分かりやすいサービス提供の仕組みを構築していきたいと思っております。そして、当法人を利用される障がいのある皆さんにとって、変わることなく「嬉しいサービス」を提供し「人生を支える」事業体であり続けるため、職員が一丸となって意欲と決意を持ち、精力的に取り組む一年といたします。

皆様の変わらないご協力とご支援を心からお願ひ申し上げます。

社会福祉法人創樹会 理事長 田中創



ぶちええね

職員インタビュー

サポートセンター友の家/糸賀 祐太

入職のきっかけ
大学の企業訪問時、私が友人とどの企業の話を聞こうかと話をしていたところ、田中理事長(当時・事務局長)に声をかけて頂いたことです。

指導体制

入職してから、優しくも厳しい先輩や気の合う後輩にも出会い、仕事のやり方や社会人としての在り方など、色々なことを学びました。今でも、先輩や仲のいい後輩などとはプライベートでも付き合いが有り、仕事の相談や日常の話をするために会ったりしています。

心に残っているエピソード

私は福祉系大学出身ですが、入職する前、福祉の仕事が務まるのか心配になり、田中理事長に相談しました。すると後日、喫茶店で仕事内容を丁寧に説明して頂いたことを今

でも覚えていています。私は車が好きで古い型のジムニーに乗っているのですが、田中理事長も車にこだわりがあり、乗ってこられた愛車を見ながら車の話をしました。

休日の過ごし方

休日は子供を連れ家族でデパートへ行ったり、住宅展示場に出向いたりしています。また車の整備費を浮かせるため、自分で車を整備したりします。

これから挑戦したいこと

一年前に、とある許可を取るために本気で勉強をしました。私は勉強が苦手で、これまではできるだけ避けてきましたが、知らないことを覚えて試験に受かるとその称号が貰えることにも楽しさを感じました。今度は、仕事にも役立つような資格を取ってみたいと思います。

企画展
『みんなのとうげい(仮称)』
会期:2024年4月27日(土)~6月末
会場:鞆の津ミュージアム



2024年1月1日~2024年3月31日

*お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
*保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

○ご寄付 ・浅野 明子

実習生

○保育士	2月13日~10日間	中国学園大学	3名
	2月23日~10日間	広島文教大学	1名
	3月7日~10日間	比治山大学	2名

ありがとうございます
ごぞいしました

事業所一覧

- 福山六方学園(障害児入所施設)(短期入所)(日中一時支援)
- あゆみ苑成人寮(障害者支援施設)(生活介護)(短期入所)(日中一時支援)
- サポートセンターひびきの家(共同生活援助)
- サポートセンター友の家(共同生活援助)
- サポートセンターかなで(日中サービス支援型共同生活援助)(短期入所)
- さわらび(生活介護)
- ヘルパーステーションあしすと(居宅介護・行動援護)(移動支援)
- ONE-すてっぷ(児童発達支援)(放課後等デイサービス)(日中一時支援)(障がい児療育等支援)
- ふぁんたす(放課後等デイサービス)
- 相談支援センター風ぐるま(一般相談支援)(特定相談支援)(障がい児相談支援)
- さくら(就労継続支援B型)(生活介護)
- 鞆の津ミュージアム(ギャラリー)

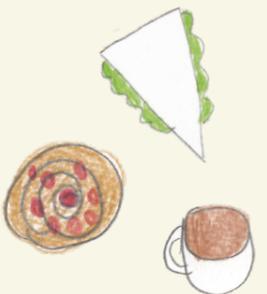
発行日:2024年4月20日
発行元:社会福祉法人創樹会 〒720-0832 広島県福山市水呑町7187番地1
TEL:084-956-0255 FAX:084-956-5749
swc@soujukai-fukuroku.or.jp https://soujukai-fukuroku.or.jp



あとかき

今年も桜の季節が到来しました。私事ですが、数年前から自宅敷地内に梅・桃・桜の苗木を植えています。最近やっと小さな花を咲かせるようになりました。花見ができる程の大きさに成長するにはまだ数年かかりそうですが、ささやかな楽しみとなっています。(編集スタッフ一同)

■題字:田中 虚雪 ■表紙:上之 昌道
■誌面作品・文字:内海 卓雄、佐々木 和徳
藤井 正彦、藤井 恵子



各施設 管理者挨拶

新年度を迎え、三年に一回となる福祉サービスの報酬改定が実施されました。世の中では厳しい状況が続きますが、社会保障制度の充実私たちに暮らしにとって最も重要なもののひとつにほかなりません。創樹会は、今年度以降も豊かな支援環境を実現する福祉事業体であるよう最大限努力することをお誓いしつつ、各事業所からご挨拶申し上げます。



福山六方学園

子ども達の育ちと暮らしを支える



施設長 中常 克彦

今年度の報酬改定における障害児支援（障害児入所）の主な改定内容として、(1)地域生活に向けた支援の充実 (2)小規模化等による質の高い支援の提供の推進 (3)支援ニーズの高い児への支援の充実 (4)家族支援の充実…が挙げられました。上記を踏まえ、福山六方学園は以下を今年度の重点的な取り組み事項とします。

①子ども達それぞれの特性・家庭環境等を把握した上で支援計画を立て、適切な関わりにつなげる。そのために職員の資質を高め、子ども達の成長に沿って支援計画を変更しながら、更なる成長を促せるよう支援する。②保護者・地元小中学校・特別支援学校及び行政と共通理解を持った上で、将来の生活を見据えた支援を行えるよう密な連携を図る。特に高等部3年生の進路については、より密に情報を共有し、卒業後の生活の場・仕事の場へのスムーズな移行を目指す。③地域・家庭での生活を継続できるよう、短期入所・日中一時・緊急一時保護等の要望を検討し、受け入れを行っていく。
子ども達の育ちと暮らしを支えるためには、「子ども達の願いに耳を傾けること」とあわせ、「支援力・環境整備・連携」は欠かせない要素です。スタッフ個々が力をつけていくと同時に、生活環境（時間・空間）の整備を進め、スタッフ間・他機関と共通認識を持ちながら、こうなりたい！という子ども達の願いをサポートしていきたいと思っています。今年度もよろしくお願い致します。

あゆみ苑成人寮

一人ひとりの障がい特性に配慮した支援環境の確立



施設長 田中 創

あゆみ苑成人寮では、利用されている皆さんの重度高齢化にもなつて介護度がより一層高まり、医療対象者も急増しています。その一方、障がい特性の多様化も進み、強度行動障がいや精神に障がいのある方の利用も多くなり、一人ひとりの障がい特性に配慮した環境作りと支援が必要となっています。

この現状の中、昨年度まではコロナ禍のため行えなかった介護技術研修を久しぶりに実施し、あゆみ苑成人寮に招いた外部講師から介護の知識や技術の基本について、講義・実演していただきました。今年度は、介護技術の実践編についての講義を受講し、さらなる介護技術の向上を図ってまいります。
また、利用されている方々の生活については、これまで通り感染予防対策の徹底を図りながら、外食したり買い物に出かけたりと、コロナ禍前には当たり前だった生活を少しずつ取り戻せた一年だったと思います。
今年度も、利用いただく皆さんにとって安心して安全な暮らしの提供に努め、「楽しい」「嬉しい」に軸をおいた、支援と活動を行ってまいります。皆さん一人ひとりが幸せを感じて頂ける一年となりますよう、職員一人丸となって取り組んでまいります。
今後とも、皆様方のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



さくら

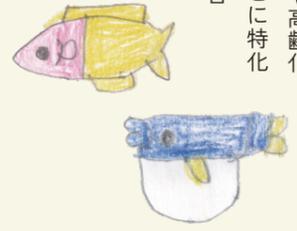
新しいさくらの出発に向けた事業所統合と新設移転準備



管理者 猪原 義久

春の訪れとともに新たなスタートを切る人たちが多い季節。それが四月です。当法人でも、昨年度早い段階から積極的に採用活動をスタートしたおかげで十二名の新採用者を迎え、利用されている皆さんの「人生を支える」新たな担い手たちと一緒に新年度をスタートすることができました。初めての就職・職場で不安に感じていることと思いますが、焦らず一歩一歩着実に前を向き、まずは目標となる人を見つけていただきたいです。私たちもお手本となるように努めます。そして、同期となる仲間たちと楽しい雰囲気の中で仕事を行って欲しいと感じています。

新年度のさくらですが、三月いっぱいまで笠岡町にあった「さをりひろば工房まち」の活動を廃止して卸町に移転し、一緒に事業を行うことと致しました。ご家族や関係事業所の皆様には、急な話でたいへんご迷惑をお掛けしましたが、今後ともよろしく申し上げます。また、さくら新施設建設予定地の確保と建設に向けた動きをスタートします。障がいの重度化や高齢化に対応したうえで、「働く」ことに特化した施設づくりを行い、地域の皆様に開かれた施設づくりを目指します。



サポートセンターひびきの家・かなで

利用者さんそれぞれの楽しみで満足のいく毎日を



管理者 片岡 志保美

昨年五月に新型コロナウイルスの扱いが変更になって以降、事業所においても外出や帰省の制限を少しずつ緩和してきました。今年度も社会情勢等に対応しながら、利用される方の楽しみや生活の維持のため、換気や消毒等の感染症対策は継続して行っています。

今年度の重点事項としては、嗜好品や衣類など、個人の好みの物を自分で選ぶ機会を提供し、利用される方が満足感を得られるような活動を支援していきます。ひびきの家・かなでの両事業所とも、日々の生活の様子や仕事から、一人ひとりの意思を受け取って、要望に応えていく。意思の確認が難しい方についても、多角的なアプローチを試み、楽しみや発見に繋がるようにしていきます。ひびきの家の利用者さんの平均年齢は四十九・八歳。高齢の利用者さんはこの一年間で大きな体調の変化が見られるようになりました。身体機能や精神面への理解を深め、丁寧な支援を心掛けていきます。

また、かなでの利用者さんの平均年齢が三十三・七歳。それぞれの方の日中活動が充実したものになるよう、グループホームとしてサポートしていきます。また、グループホームで日中を過ごされる方に対しては、活動の幅をより広げられるよう努めていきます。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

利用者さんそれぞれの意向を ふまえた丁寧な支援を



管理者 細羽 正樹

二〇二四年四月には障害福祉サービスの報酬改定が実施され、さわらびで行っている生活介護事業における基本報酬の算定ルール等が大幅に変わります。

主な変更点は、①各利用者のサービス提供時間②この基本報酬の設定になること③障がいのある方の意思決定支援を推進するための方策として、サービス管理責任者等が行う各種会議は利用者本人が参加するものとし、当該利用者の生活に対する意向等を確認すること④本人の意思を踏まえたサービス提供（同性介助）とし、本人の意思に反する異性介助がなされないよう、サービス管理責任者等がサービスの提供に関する本人の意向を把握し、本人の意向を踏まえたサービス提供体制の確保に努めること④食事提供体制加算の算定要件として食事摂取量をはじめ、体重やBMIを記録すること等です。その他、人員配置体制加算の拡充、入浴支援加算（新設）、強度行動障害を有する障がいのある方への支援体制の充実等が盛り込まれました。

ここ数年、さわらびは新型コロナウイルスに翻弄され続けていますが、まずは利用される皆さん、ご家族、スタッフが健康で過ごせることを大前提に、上記の改定等の内容も踏まえながら、利用される皆さんそれぞれの障がい特性や介護度に応じた質の高い丁寧なサービスを提供していきます。

新年度も引き続き、よろしくお願い致します。

。サポートセンター友の家

意思決定支援の促進と
より開かれた事業所に向けて

ようやく、コロナ禍前の
行事が再開できたと思っ
たら、想定外の課題が出
てきました。職員が(私も)
行事やグループ支援の段取
りを忘れていた。そんな今年度は、一年かけて「思い出
す年」にもなりそうです。



管理者
藤井 豊治

また、今年度は報酬改定があり、新たに義務づけられ
たり取り組みの強化を求められている項目があります。
利用されている方一人ひとりと向き合い、想いをくみ取
りながら意思決定支援を促し、居心地よい生活の場や自
立生活に向けた支援を行うこと。ホーム近隣の方との交
流を積極的に行えるよう、地域活動へ積極的に参加を促
すこと。職員の支援技術向上のために事業所独自の研修
を継続することなどは、これまでと同様に変わらず継続
するものです。

新たな項目は、地域連携推進会議(令和七年度より義
務化)を年に一回以上開催し、運営状況の報告と必要な
要望・助言を聞くこと。構成メンバーには利用者・家族・
地域住民の代表者・市町村の担当者などが入ることが条
件となっているほか、その構成メンバーが事業所を見学
する機会も設けることとなっています。同一法人外の目
を入れることで、より開かれた事業所
であることを求められており、今年
度はその準備段階として試行を進め
る予定です。



。相談支援センター風ぐるま

日々の悩みごとと一緒に
考えることのできる場所

日常生活では様々な行事
も少しずつ再開され、日々
の楽しみも増えてきている
のではないのでしょうか。風
ぐるまでは、福祉サービス



管理者
藤井 祥普

利用のための手続きや計画作成・情報提供など、皆さん
の楽しみをサポートするための調整業務を行っています。
近年、外出支援に必要なヘルパーさんの人材が不足して
いるという話をよく聞くようになりました。また、短期
入所の予約がなかなか取れないケースもあるようです。

そのような状況のなか、好きな遊びや趣味を見つけたり、
好きなことを共有できる友だちをつくることは、大切な
ことだと思います。例えばYouTubeやゲームがなか
なかに止められないという悩みもお聞きしますが、時間が
守れるなら、家族のいない余暇時間を過ごせたり、他の
人と繋がったりできるという良い点もあります。生活の
中で何が大切か考え、納得して行動できる力が必要なの
だと思います。

近年、福祉サービスを行う中で、ご本人の意思決定支
援が重要視されるようになりました。そのためにも、ご
本人にはどんな思いがあるのか、本当に必要なことが伝
わっているのかなど、本人からのサインを見逃さず、分
かりやすいコミュニケーションのために必要とされる支
援スキルや考え方を日々見直していかなければいけません。
風ぐるまではこのように、日々の悩みごとにも寄り
添いながら一緒に考えていきたいと思っておりますので、今年度
もよろしくお願い致します。

。ヘルパーステーションあしすと

利用者さんの声に耳を傾けて
寄り添うことの大切さ

ヘルパーステーションあ
しすとでは、現在も新型コ
ロナウイルス等感染症の対
策を取りながら支援をして
います。マスクをつけるこ
とが難しい方や外出を最小限に抑えた暮らしを継続され
ている方、家族に感染させてはいけないと頑張っている
方々に対して、安心してもらえるような支援を続けてき
ました。



管理者
黒田 将義

感染症については注意をしていく事が大前提となりま
すが、今年度は、積極的に外出支援を行うことを検討し
ています。どのような方法なら可能か、どうすれば不安
が解消されるのか、今までの話し合いで得た考え方や感
染症に関して集めた知識、外出先の感染症対策状況等
様々な情報をもとに支援方法を考えていきます。感染症
対策を取りながらの外出支援でも新しい出会いがあり、
散歩の中で新たに好きになった場所や親切にしていただ
ける方と顔見知りになることもありました。たくさんの方
の選抜を活かして、さらに充実した支援につなげるこ
とができればと思っています。

また、私たちヘルパーは居宅へ訪問し、利用される皆
様と直接話す機会があります。皆様の声に耳を傾け、必
要な支援を一緒に考えることが私たちにはできます。で
きることに限りはありますが、皆様の思いに寄り添いな
がら、必要なサービスが提供できるように努めて参ります。

。本部事務局

創樹会を支える大きな強みは
職員たちの高い共感力

「福祉の就職先を探して、
いろいろ見ているけれど、
事業所の違いがわかりませ
ん。」と、ある説明会で学生
さんから率直な声を聞きま



事務局長
山本 由紀子

した。そうなのです。事業所は数多あり、強みをアピ
ルできる事業所にならないと、求職者に気がついてはも
たえません。

創樹会の支出のうち約七十五%程度を人件費が占めて
おり、まさに人材は法人の基柱です。そして、残る約二
十五%を設備の維持や職員の育成、将来のための積立へ
と分けています。この数字からもお分かりいただけると
思います。利用者の障がい特性に合わせた設備
を整えたいという職員の切なる願いもなかなか叶わない
というのが現状です。

創樹会は社会福祉事業を行うことを目的とした非営利
団体のため、様々な制約があるなか、事業継続のための
財源は自ら確保していかなくてはなりません。先行き不
透明な時代ですが、次につなげるためには、各担当者が
協力して最善の努力を重ねるしかないと思っています。

さて、話は最初に戻りますが、法人の強みについて
まず頭に浮かぶのは、共感力の高い職員が
多いことでしょうか。もちろんほかにもた
くさんあります。今後も少しずつではあ
りますが、様々な媒体を通じて「創樹会
の強み」をお伝えしていきたいと思えます。



。すてっぷ・ONEすてっぷふあんたす・あさか

発達段階に応じた療育活動で
「来て良かった」と思えるように

幼児期から学齢期の通所
事業所として、児童発達支
援「すてっぷ」、放課後等デ
イサービス「ONEすてっ
ぷ」「ふあんたす」、幼児の
日中一時支援として「あさか」の計四事業を実施してい
ます。



管理者
松岡 正治

「すてっぷ」は定員十名の事業所で、一歳児から年長
児まで利用しています。小集団での活動を基本として子
どもの気持ちに共感し、人との関係を大切にしながら子
ども一人ひとりが自分の良さを感じられるよう療育活動
をしています。「ONEすてっぷ」は、定員二十名
の事業所で、小学校一年生から高校生まで利用していま
す。療育活動だけでなく余暇支援も行うことで、様々な
利用ニーズに応えています。また、土日祝日の開所日
を設けることにより、保護者の就労支援の手助けも行っ
ていきます。「ふあんたす」は定員十名の事業所で、学
齢期における療育支援を大切にしています。グループ療
育と個別療育を組み合わせ、子どもたち一人ひとりの
発達や課題、ニーズに合わせた支援を提供していきます。
「あさか」は定員五名で、就学前のお子さんが利用でき
る事業所です。療育的な関わりを含めた生活支援を行
うと共に、家庭及び関係事業所との調整を図りながら、保
護者の就労支援やレスパイト的な利用の受け入れも行っ
ていきます。
皆さんから「来て良かった」と思っていただけるよう、
精一杯努めて参ります。

NEWS

「ユースエール企業」に認定されました

令和5年12月21日、創樹会はユースエール企業に認定されました。ユースエールとは、「ユース＝若者」と「エール＝応援」を組み合わせる言葉で、若者の採用や育成に積極的かつ若者の雇用管理状況などが優良な中小企業を「若者を積極的に受け入れている働きやすい企業」として厚生労働大臣が認定する制度です。

具体的には、正規職員の入職後3年以内の離職率が20%以下、前年の月平均の時間外労働時間が20時間以下、有給休暇の取得率が年10日以上または取得率70%以上などが要件に含まれます。県内では約50社がこの認定を受けており、今後も若者の採用や育成に力を入れ、働きやすい職場づくりを継続していきます。

事務局 川島 朋也



(上)ユースエール認定マーク
(下)ユースエール認定式





大賀陽生

二月十七日と十八日に、福山六方学園の利用者さん三名とスタッフとで、一泊二日の宿泊強歩を行いました。一日目には、福山六方学園から尾道に向けて歩いていき、尾道のホテルで一泊。二日目は、ホテルから福山六方学園へと歩いて帰りました。歩いている際は、普段あまり目にするのではない景色をみて一緒に楽しみ、疲れた時にはお互い励まし合って歩きました。往復で約五十kmの道のりでしたが、強歩中には他の事業所の方々が応援に来てくださり、その声援の中、無事完歩することができました。

福山六方学園

福山六方学園の創設当初から続く伝統行事
強歩 きょうほ



ONEIすてつ川本直弘

今年度から、「障がいのある人へ関わる職員として」と題し、菅野敦氏(東京学芸大学名誉教授)による全六回の職員研修を開催しています。創樹会は児童施設から始まり、現在は十一事業所まで増えました。一人ひとりの人生に向き合い、様々なライフステージでの支援をさせていただいています。講義を通してそれぞれのステージを理解することで、次のステージを見据えたよりよい支援に繋がっていききたいと思います。

法人研修

スタッフのまなび

鞆の津ミュージアム TOMONOTSU MUSEUM

住所 | 〒720-0201 福山市鞆町鞆271-1
 開館時間 | 10:00-17:00(月火休館)入場無料
 電話番号 | 084-970-5380
 Webサイト | https://abtm.jp

イベントレポート

第18回 はじめまし展 開催

法人の恒例行事として毎年開催しているFUKUROKU ART「はじめまし展」を、3月9日～4月7日にかけて開催しました。本展も今回で通算18回目。絵画・イラスト・木工・陶芸・縫い物など、法人内各事業所で活動をされている皆さんの暮らしの中で生み出された日々の多様な表現が、数多く集まりました。会期中には利用者さん本人やご家族もたくさん来館され、それぞれに楽しまれていた様子。つくり手の多様な感性が映し出される創作物に出会える貴重な機会をつくれたのではないかと、思います。



イベントレポート

「SHOKKIの陶芸教室」を開催

3月16日と17日、セラミックレーベルのSHOKKIさんを講師にお招きし、陶芸体験ワークショップを開催しました。とっておきの芸術祭inふくやまの一環として実施した本イベントには、障がいの有無や年齢にかかわらず、子どもから大人まで様々な方々40名ほどがご参加。粘土を素材に手びねりの手法で自由に創作する1回目のあと、2回目となる4月6日と7日には絵付けも体験し、作品を完成させました。4月末からは、参加者の皆さんがつくり出した作品を集めた展覧会を鞆の津ミュージアムで開催する予定となっています。見たことのあるようなないような、たくさんの独特なたちの共存。展覧会の開幕が今から楽しみです。



あゆみ苑成人寮 よりみつ まい 寄光 真衣

ひとつひとつ、丁寧に進めていくことを大切にしていきます。一日でも早く、みなさんのお力になれるよう頑張ります。



あゆみ苑成人寮 ふじもと あやな 藤本 彩那

不安と緊張でいっぱいですが、いつも笑顔で利用者の方と関わってまいります。よろしくお願いいたします。



あゆみ苑成人寮 こうち ひろゆき 高地 裕之

利用者さんのことをしっかり把握して、一人ひとりのサポートを丁寧に行ってまいります。よろしくお願いいたします。



あゆみ苑成人寮 かわにし もえ 川西 萌絵

大変なこともあると思いますが、利用者さんが安心して生活を送ることができるよう、精一杯努力していきたいと思っています。



友の家 おおすぎ このみ 大杉 木之美

社会人になっても、学ぶ姿勢を大切にしていきたいです。利用者さんにより良い支援ができるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



友の家 いちかわ さき 市川 咲

沢山ご迷惑をおかけすることもありますが、自分がやるべき事はなにかを一番に考え、自ら進んで行動していけるよう努力していこうと思います。



福山六方学園 おがわたいせい 小川 泰世

まだわからないことが多いですが、報・連・相を大切に頑張ります。よろしくお願いいたします。



福山六方学園 ありた あいり 有田 愛梨

ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、日々経験を積み、人の力になれるよう努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



すてつ やまのうえ ともみ 山野上 朋海

御迷惑をお掛けしてしまうこともあるかもしれませんが、日々多くのことを学び、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



あしすと ばば よしの 馬場 吉乃

新しい環境で不慣れな事も多いですが、早く業務を覚えて、活躍出来るよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



ひびきの家 もりかみ まゆ 森上 真有

障がい者支援の一環としての創作活動に興味を持ち、この度入職いたしました。コツコツと、精一杯頑張りたいと思います。



ひびきの家 ほんだ ゆきこ 本田 有紀子

分からないことは先輩方に聞きながら、日々利用者の皆さんのために努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。